

幸町一丁目防犯パトロール隊(千葉県)



町内会で独自に保有した「青パト」の出発式

午前0時から午前3時のパトロールを含む月55回のパトロールを実施

1 防犯パトロール隊

防犯パトロール隊発足の提案に対する自治会役員の反応と防犯本部の設置

- ・パトロール隊の発足を提案するが、「効果がない。」等の意見続出
- ・2005年6月、継続的活動ができるように、連合自治会の中に「防犯本部」を設置し、自治会長から独立した組織とする。

隊員の募集と活動の開始

- ・2005年6月、コミュニティ紙、ケーブルテレビ、自治会を通しパトロール隊員を募集
- ・2005年7月、隊員77人でパトロール隊発足。活動を開始するが、目に見えた効果が上がらず決定打を欠く

青パトの運行

- ・2005年10月、青パトを借用し、午前、午後、夜間、深夜(午前0時から午前3時)の4回運行したところ、犯罪発生がゼロ、効果絶大
- ・2007年3月、自治会で青パトを購入運行(愛称「まもるくん」)

子ども見守り活動

2005年12月、千葉西警察署管内防犯協会の広報車を借り、小学生下校時のパトロールを毎日実施

2 街の防犯診断

防犯は、人による活動と犯罪に強い街づくりが必要であり、2006年7月、千葉県防犯設備士協会による街の防犯診断を実施。防犯診断の指導に基づき、マンション駐車場に防犯カメラ11台(1台

60万円)を設置。現在、社団法人日本防犯設備協会、独立行政法人建築研究所、警察と協力し犯罪に強い街づくりを推進中であり、ハード面の整備と併せ住民の防犯への参加意識を啓発している。

3 活動の継続

防犯パトロールを継続していくためには、次のことが重要

誇りと参加者の負担軽減

- ・「自分達の活動の力で犯罪が減った。」「子どもの安全を守っている。」という誇りが原動力となることから、犯罪減少を実感できるパトロールを行い誇りを持てるようにする。
- ・参加する人の負担をなるべく軽くするため、一人一人の都合を聞いて活動日程を調整する。

現役世代の確保

現在、隊員は132人。発足当初30から40代の参加者は18人であったが、今は50代を含む57人(43%)が現役世代である。力を合わせ取り組む具体的な活動を行い、効果を肌で感じさせることが現役世代の取り込みにつながる。

青パトの導入

月のパトロール回数は、昼の徒歩パトロール4日間、夜の徒歩パトロール7日間、小学生下校時の青パト運行20日間、夜9時から0時までの青パト運行9日間、深夜0時から3時までの青パト運行15日間と月55回実施しているが、深夜の青パトの運行が犯罪抑止の鍵である。

幸町一丁目防犯パトロール隊（千葉県）

次に、千葉県からお越しいただきました幸町1丁目防犯パトロール隊の皆さん、よろしくお願いいたします。

蟹江 皆さん、こんにちは。ただいまご紹介をいただきました幸町1丁目防犯パトロール隊の蟹江です。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、最初に、私たちが活動する千葉市美浜区幸町はどんな町か、そしてどのような活動をしているのか、ビデオにまとめてみましたので、ごらんをいただきたいと思います。（以下、ビデオ）

私たちの千葉市美浜区は、38年前に東京湾を埋め立てて造成された21.16平方キロメートルの新しい都市です。現在、16万7,000人の人が住んでいますが、住居の90%以上が集合住宅という典型的なベッドタウンです。

一方、国際都市としての機能もあり、区内にはモーターショーなどのビッグイベントが開催される国際展示場「幕張メッセ」があります。千葉ロッテマリンズのホーム球場である千葉マリンスタジアムも美浜区です。



防犯パトロール隊

町の4割を占めるのが、千葉ガーデンタウンです。敷地は豊かな緑と広い駐車場で占められています。ここが私たち幸町1丁目防犯パトロール隊の活動の舞台です。私たち幸町1丁目防犯パトロール隊は、平成17年7月に77名で発足しました。その年の年末には98名になり、平成18年には117名、そして現在では132名と年々増加、内容も充実してきています。

活動は、昼、徒歩によるパトロールが4班で月に4回、夜、徒歩によるパトロールが7班で月に7回、小学校の下校時、青パトによるパトロールが月に20日間、夜9時から12時までの3時間、青パトによるパトロールが月に9日間、深夜0時から3時まで3時間、青パトによるパトロールが月に15日間、合計1カ月で55回のパトロールを実施しています。



昼間徒歩パトロール 4班 月4回
 夜間徒歩パトロール 7班 月7回
 小学校下校時パトロール 月20日
 夜9時～12時 青パトカー 月9日間
 深夜0時～3時 青パトカー 月15日間
 合計 一ヶ月で55回のパトロールを実施



こうした活動の結果、町内の犯罪被害は着実に減少しています。パトロール隊発足のきっかけとなった車の盗難、車上ねらい、部品ねらいなど、車関連被害の6年間の推移です。グラフをごらんください。

平成14年38件、平成15年52件、平成16年35件、平成17年、この年の7月にパトロール隊発足、26件、平成18年21件、平成19年、本年は上半期で6件となっています。その他の犯罪についても同じような結果です。



それでは、我が町のパトロール隊長、蟹江の報告をお聞きください。

蟹江 たいまごらんをいただきました私たちの町、幸町1丁目は現在18自治会3,364世帯で、95.6%がマンション、公営住宅などの集合住宅でございます。平成16年4月に私はこの町のコミュニティ委員会の会長をお引き受けいたしました。このコミュニティ委員会というのは、町内会の活動を支えて、まちづくりを進める実働部隊で、現在は48人の委員がおります。

会長になりまして、これからのまちづくりの目標として「安心・安全の町」、「活力と魅力のあるまちづくり」の2つを掲げました。きっかけとなりましたのは、「交番だより」に掲載されている犯罪情報を集計してみましたところ、我が町だけでも年間130件を越す犯罪被害があり、大変驚いたことです。犯罪のない、安心して暮らせる町をつくるには、住民も何らかの防犯活動をする必要があると考えるようになりました。

もう一つの「活力と魅力のあるまちづくり」は、高齢化で活力が低下し、若手の後継者が少ないため、まちづくりの将来像が見えないということがありました。何度かみんなで協議をした後に、町内会の定例会で防犯パトロール隊を結成することを提案しました。しかし、残念ながら賛成をする自治会長は1人としておりませんでした。会議ではだれも発言しませんでした。その後、「忙しいのにこれ以上何かやれと言うのか」とか、「よそではパトロールをしても効果がないと言っているぞ」とか、「そんなの必要ない」というような声が次々と耳に入ってまいりました。

そのまま10カ月が過ぎたころ、ある日、必要ないと言っていた自治会長が突然、「パトロール隊をつくってください。何でもします。お願いします」と頼んできたわけでありました。余りにも突然の変りようにびっくり。でも、原因がありました。6日間で同じ駐車場から3台の車が次々と盗まれたからです。しかも、その1週間前にも近くの別の駐車場から2日連続で車が盗まれておりました。これはもう間違いなく町が狙われている、そういう思いで背筋がぞっとしました。

先ほどの映像にありましたように、緑が豊かで開放的で大規模な駐車場というのは、反面、車の持ち主が特定できずに、隠れるところが至るところにあるため、防犯上、大きな欠陥となります。その上、住民の警戒心が薄いとすれば、もうこれは犯人にとって格好の仕事場になるのは当然であります。再び町内会の定例会に諮りましたところ、今度は反対する人はだれもおりません。私に一任をいただきましたので、みんなの気持ちの変わらぬうちに大急ぎでパトロール隊立ち上げの作業に入りました。

まず、全戸に「パトロール隊に月1回でいいから参加してください」とのお願いのピラを配りました。しかし、ピラだけでは効果があるのかどうか心配なので、会う人ごとにパトロール隊への参加をお願いいたしました。そして、締め切りの日、40名ぐらい申し込んでくれれば何とかかなるかなと、こう考えておりましたところ、何と77名の方が申し込んでくれました。特に、コミュニティ委員会は、当時58名の委員中、41名が参加をしてくれました。



パトロール隊の発足に当たり指導いただきました千葉西警察署の担当の方から、「少なくとも3年間は続けてくださいよ。そのくらい続けないと効果は出ませんよ」と言われておりましたが、やはり1カ月、2カ月とパトロールを続けても犯罪が減らず、内心は焦っておりました。何か決定打が欲しいと思っておりましたそんなときに、また、千葉西警察署から「千葉県防犯協会の青パトを1カ月間運行してみませんか」との話をいただきました。「1週間ではだめですか」と言いましたら、1カ月でなきゃだめだと。しかし、決定打が欲しいと思っておりましたが、1カ月間となるとこれは大変だとそう思い、「うちはまだパトロール隊がスタートして3カ月です。もっと経験のあるしっかりしたところに話を持っていかれたらいかがでしょうか」と断ってしまったのです。我ながら上手な断り方だと思いましたが、「週に1回でも2回でもいいですよ。おたくだたらできますよ」との重ねての説得に結局引き受けることになりました。しかし、この青パトとの出会いが、その後の我が町の防犯活動を決定づけることになったのです。

どうせやるんなら、徹底してやろうと思い、まず20名のドライバーを集めまして、平成17年10月11日から1カ月間にわたる運行を開始しました。運行は、まず1日を午前、午後、夜間、深夜、深夜というのは、これは0時から3時までですが、4つに区分いたしまして、ドライバーの皆さんに都合のいい日を申告してもらいました。その結果、週に21回、1カ月で84回もの運行ができました。しかし、さすがに深夜の0時から3時までの時間帯は希望者がおらず、私がこの時間は22日間、運行いたしました。心配した4人の仲間が残りの8日間を手分けしてやってくれました。深夜の3時間

は町の隅々まで回っても3回から4回の巡回ができます。しかもかなり離れていても回転灯は目立つため、効果は絶大であります。

この1カ月間の青パトの運行直後から大きな変化が起きました。それまでは自動車盗難や車上ねらい、部品ねらいを合わせると毎月三、四台ほどあった車の被害が、パトロール区域では7カ月間、ゼロとなったのです。

一方、昨年12月より、小学校下校時における児童の安全確保のために防犯広報車で毎日巡回パトロールを行うようになりました。これは当時広島市や今市で児童が下校時に連れ去られて惨殺される事件があったころ、我が町でも中年の男が小学校1年生を連れていこうとした事件があり、直ちに地域の子供は地域で守ろうと、コミュニティ委員、民生委員、PTA、青少年育成委員会に呼びかけて始めたものです。

アナウンサーとドライバーの2人1組で、低学年の下校の始まる30分前から自宅に帰った後までの時間帯を町の隅々までアナウンスしながら広報車でパトロールするのですが、特に入けのない裏道に注意をするようにしております。

アナウンサーの皆さんは、最初はなれないためか、「こちらは幸町1丁目防犯本部です」と言うところを「こちらは幸町1丁目犯罪本部です」とやるなどハプニングもありました。もっともアナウンサーの募集は、年齢、経験、スタイルを問わずとしたため、ぜいたくも言えません。小学校の下校時に活動の主力を移して7カ月がたったころ、それまで途絶えておりました自動車盗難や車上ねらいなどがまたもや発生しました。どこで見ているのかわかりませんが、夜の警戒が手薄と見て動き出したのだと思います。

そこで、小学校が夏休みに入ると、直ちに防犯協会の青パトを借用しまして、夜間と深夜のパトロールを開始しました。これを昨年8月いっぱい続けまして、さらに9月からは学校の下校時の青パトによる巡回も再開いたしました。以来、そのときのパトロール体制を現在も続けております。

その結果、現在は132人の隊員で、ビデオで紹介しましたとおり、徒歩によるパトロールが昼・夜で11日、青パトによるパトロールが昼・夜・深夜で44回と、合計月55回のペースでパトロールを行っております。これは年間ですと、600回を超す回数になります。特に深夜の青パトのドライバーは3時間と長時間ですが、この時間帯こそ犯罪抑止のかぎを握る時間であり、休み前の金曜と土曜日の夜は、現役の皆さんが、そしてウイークデーの深夜は毎日が日曜日の私たちがというように、個々の都合に合わせたローテーションを組んで行っております。発足前には週に2回程度、月に8回のパトロールを目標にしていたことを思いますと、本当に夢のようです。

こうした隊員の努力でパトロール隊発足のきっかけとなった自動車盗難及び車上ねらい、部品ねらいの自動車に絡む被害はここに来て急激に減っております。最も多かった平成15年の52件から本年は上半期の6カ月で6件にまで減りました。このうち加入自治会の区域、すなわちパトロール区域内での発生は1件のみとなっております。犯罪はみんなが協力をして努力をすれば防げるとの確信を強く持ちましたが、油断をするとすぐに元に戻るということも教えられました。

街の防犯診断

現在、自転車盗難だけは横ばいで、この対策が課題となっております。しかし、犯罪を防ぐためにはパトロール活動だけでは十分とは言えません。構造的に盗難に遭いやすい駐車場や駐車輪場、痴

漢の出やすい場所などハード面での改善が、ぜひとも必要です。

こうした問題は、パトロール隊というよりも自治会や管理組合、行政の仕事になってまいります。そこで、ハード面の対応をするために、各自治会から理事を選出してもらい、防犯本部を設置いたしました。

その初仕事として、千葉県防犯設備士協会に町の防犯診断をお願いしました。当時は千葉県防犯設備士協会が設立されて間もないため存在が知られておらず、町内でも委託することに異論を唱える人も一部にありましたが、専門家の判断を聞きたくて決断をいたしました。防犯設備士の皆さんが現地を実際に歩いて作成していただいた診断報告書は、具体的で大変有効な提案が数多くありました。この報告書の内容について、防犯本部の理事会を開催し、説明をしてもらいました。この席上、防犯上、多くの問題点を指摘された町内で最も大きな駐車場を有する管理組合と駐車場会社は、1台60万円もする防犯ビデオカメラ11台を3カ月後に設置し、また進入路や見通しの悪い生け垣も同時に改善をしてくれました。これらは前々から駐車場会社や管理組合に住民が個々に要望していても相手にされなかったものですが、防犯診断を機に一気に解決をするという成果を上げることができました。

かつて町内の自動車関連の犯罪のほとんど占めて悩みの種だったこの駐車場は、その後9カ月を経過しましたが、全く被害は発生しておりません。パトロール活動と施設の改善の双方がこのような効果をもたらしたものと確信をしております。

活動の継続

活動を進める上で何といっても一番大事なことは、防犯活動に参加してくれる人が張り合いを持つことです。これが明日へのやる気を引き出すこととなります。我が町の場合、自分たちの活動で犯罪が減ったということと、子供たちの安全を守っているのは私たちだという誇りが継続の原動力になっていると思います。そして、参加する人の負担をなるべく軽くするというのが長続きする要因だと思います。

青パトは、活用と工夫次第で大きな効果がありますので、いつでも自由に使えるようにと自前で本年3月に購入をしました。スピーカー付の青パトです。町内会で積み立てておりました地域活動基金の中から100万円を取り崩して、車と登載する機材の購入費用に充てました。愛称を募集しましたところ258人の応募があり、「まもるくん」に決まりました。町を守る、子供を守る、生活を守る、素晴らしい名前だと思います。当選者は、小学校4年生が3人と自治会長1人の計4人で、それぞれに感謝状と図書券を差し上げました。

こうした防犯活動の取り組みを通しまして、もう一つのまちづくりの目標である「活力と魅力のあるまちづくり」も希望の光が見えてまいりました。それは、このパトロール活動に参加した30代から40代のメンバーは、最初の年は18人でしたが、今年は37人と増加し、50代を含めると、現役世代の参加は現在57人にもなります。これは隊員132人の43%に当たります。今は防犯活動だけという人もありますが、やがて町の活動の主力選手になってくれるものと期待をしております。後継者難を嘆くよりも、みんなが力を合わせて取り組む具体的な活動目標があれば、必ず共感してもらえるし、道は開けるということを実感いたしました。しかし、何といっても主力は圧倒的に元気なシルバーです。我がパトロール隊には定年がありませんので、高齢でも元気な方には参加をいただいております。

我が町において、現在、財団法人日本防犯設備協会と、これは防犯診断からのつき合いで始まったんですが、それと独立行政法人建築研究所、それに警察の皆さんが、今、共同で防犯のまちづくりを進めるための徹底した調査研究をしていただいております。町内600カ所に及ぶ照度調査を初め、全住民の防犯意識調査や防犯対策の現状調査なども行われ、広範なもので、これらは犯罪に強いまちづくりの貴重な資料になると大いにその結果を期待しております。



また、本年度警察庁より指定をいただきました「安心・安全ステーションモデル事業」は、私たちボランティアで活動を行う者にとって大きな励みとなっております。こうした事業は、現場の声をさらに聞いていただき、さらに拡充をお願いしたいと思います。

蟹江 以上で我が町の防犯活動の報告を終わります。ご清聴ありがとうございました。

司会 大変ありがとうございました。

深夜にわたるパトロール、大変でございますけれども、今後ともぜひ続けていただきたいと思います。